

明治八年
大阪
錦画
新聞
第八号

第三月の大日の夜、淀の小橋の
中程は、男女の衣類ぬき捨て
以上売封のやき買、情死と見ゆ
まきと姿へ見へど、とどろきけと
このものと、尋て聞け、西京の
上七軒の客舎なる
山内内の若菜
と、顔艶一き

鳥店や、籠の鳥ある若菜と、氣も食鶏の思録
野はほと近き笹井町よて
散財花さ、敷千本、通北
倡婦と、添添る氣の遊男へ
互ひは好と、鋤鋤で、身とむらう、らひの、思案も
今、黄つらり、せんごも身と水に、没て浮名流と
と、わさこ子きる思案との、噂のまことと、小画ス
水に、ささる、その、まら、名も、さ
竹と、ささる、こころ、ま、い、ん
み、街、誌



明治八年 大阪錦画新聞8号 文庫10-8064-7
早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

